

被災地公演について 紺野美沙子

- *被災地訪問 2011年8月 岩手県陸前高田（祖母の実家・叔父が在住）
 10月 宮城県石巻市・南三陸町・七ヶ浜町・牡鹿半島
 （UNDP 視察）
- ☆2012年2月末~3月 宮城県名取市・岩手県陸前高田市
 福島県会津若松市（朗読座・東北応援公演）
- 5月 福島県会津若松市・双葉郡大熊町立大野小学校訪問
 （「心に響く言葉」出前授業）（原発避難の仮校舎）
- 2013年2月 福島県郡山市・宮城県石巻市・岩手県大槌町
 （読売新聞主催・和のこころを語るリレー塾）

*朗読座・東北応援公演

〈きっかけ〉 東日本大震災以降、無力感に襲われていたが、写真絵本「さがりばな」に出会い、「命のつながり」を描く作品を東北で上演したいと思った。
 文化庁近藤長官のインタビュー記事にも背中を押される。
 （文化芸術には復興を導く力がある）

〈演出ポイント〉 観客参加型であること。

舞台と会場が一体となって身体を動かすパフォーマンス。

客席インタビュー、合唱など。

*各地のボランティアスタッフとの懇親会（飲み会ですが…）

〈問題点〉

その1 公演開催地の決定→現地の調整役が重要（現地スタッフ・機材・広報など）
 今回は個人的にご縁がある場所、3か所での公演を決定。

*名取市愛島東部団地仮設住宅集会所→閑上地区の町内会長さん

*陸前高田→叔父

*会津若松→大学の後輩

資金不足から、被災地の皆さんに手弁当での参加をお願いすることになってしまった。

今後、継続して公演するためには、被災地での受け皿、体制づくりが必要。

その2 製作費

今回は、民間非営利団体・あしなが育英会との共催。

製作費は折半。被災地公演に賛同して下さったスポンサーの協力あり。

出演者・演出家はボランティアだが、スタッフの人件費や交通費・宿泊費など、経費がかかるため、資金繰りに苦労。

何らかの助成があると有難い。

その3 公演会場

公共施設での公演の場合、会場までのアクセスの問題がある。

仮設住宅の高齢者は自家用車がない方が多く、会場までの交通手段がない。

仮設住宅や過疎地に住む人々に対する対策が必要。

実演家が上記のような場所に出向くことも要検討。

*まとめ 公演だけではなく、懇親会やワークショップなど、住民参加の機会を作り、コミュニケーションの場を設ける。

単発で終わるのではなく、継続させることが大切。

*朗読座・東北応援公演

映像資料ございます。

roudokuza@gmail.com (担当・斉藤) までお気軽にご連絡ください。